



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町 3-6
☎ 0959 (72) 3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

ひびこいで

主任司祭 中村 満

新年おめでとうございます。月遅れの挨拶になります。小教区報は本号が新年号ですので、遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。同時に、今年も昨年同様、神様の祝福に満たされた良き年でありますように祈念いたします。

昨年の大きな出来事といえば、わたし達にとっては、当然、フランシスコ教皇様の訪日、来崎だったといえるでしょう。雨天の中、訪問くださった爆心地と西坂公園、一転晴天となったビッグNでのごミサ。いずれも忘れ難い記憶に残る体験でした。三か所で発して下さったメッセージをこれから読み解き、今後の指針にしたいと考えている。同時に来崎に関してご協力くださった皆様に改めて心から

感謝したい。

ところで、今年は、被爆七五周年である。一つの節目の年と言えるが、長崎の教会として平和をテーマに地道な平和活動と平和を願う祈りを捧げる時であるといえるだろう。

フランシスコ教皇様は「核兵器のない世界は実現できる」と爆心地で平和メッセージを国内外に発信してくださいました。被爆地に住む者として、核の脅威と悲惨さ、無差別の殺戮、その残酷さを国外にアピールする機運を高める好機である。教皇様は「カトリック教会としては、人々と国家間の平和の実現に向けて不退転の決意を固めています。それは、神に対する、そしてこの地上のあらゆる人に対する責務なのです。核兵器禁止条約を含め、核軍縮と核不拡散に関する主要な国際的な法的原則に則り、たゆむことなく、迅速に行動し、訴えていきます。」と世界の平和実現のために取り組むことを

断言されています。被爆者が高齢になる中、核兵器の何たるかを知っている長崎の人々が、真の平和の道具となって働くように求められています。

今年の夏には、オリンピックピックが開催されます。世界各国から多くの選手、コーチ、観客が来日します。半世紀を越えて訪れる平和アピールの好機とも言えるでしょう。原爆の悲惨さと共に、核兵器のない世界が実現できることを日本の教会と共に祈り、共に活動するよう促されています。

新しい年を迎えて

助任司祭 下原和希

一月一日は、「あけましておめでとう」という言葉がよく使われています。一月終わりにこの原稿を書いたため、今頃に使う言葉ではないことは理解してはいますがそれでも言わせてください。皆様、明けましておめでとうございませう。

年明けというものは何かと感慨深いものです。「昨年は頑張れなかった、昨年は頑張ったから」と

昨年がどのような年であっても、新年を迎えると自分なりにどのような年を迎えたいか考えてしまうものです。新年の抱負という形でもなく、新しい年を迎えたいという何かしらの願いは誰にとってもあるのではないのでしょうか。教会ではありませんが、毎年、新年を迎えてお寺や神社に行つての初詣が話題となります。最近ではお寺や神社ではなく、東京の渋谷やどこかのテーマパークに集まって新年をお祝いすることも多いと聞きます。

新しい年を迎えるための願い、それは大きいものもあれば小さいものもあるでしょう。その願いが新しい年を支えていき、誰にとっても平和なものでありますように、教会でもにお祈りいたしました。願いのための祈り、それは聖書で語られていることです。

「また、はつきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれかなえてくださる」(マタイ十八・十九)。

その願い事が誰かのためでなく、自分のためのものであるかもしれない。そのようなときはたとえ、次の聖書のことばに注目して

ただだければと思います。

「命を愛し、幸せな日々を過ごしたい人は、舌を制して、悪を言わず、唇を閉じて、偽りを語らず、悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ」(ペトロの手紙一三章十一節)。

今年がどのような年になるのか、誰にも分りません。嬉しいこともある中で、間違い、後悔を重ねることも多いかもしれません。しかし、新しい年が誰にとっても良き年でありますように、ともに祈りくだされば幸いです。

一緒にする信仰生活

助任司祭 金 ボム

私たちには、それぞれ生き甲斐というものがあります。ある人にはそれが家庭かもしれませんし、ある人には職業かもしれませんし、ある人には信仰かもしれません。今私に「生き甲斐は何ですか」と聞かれると、はっきりした答えはできませんが、私には一つだけではなく、いくつもあるかなと思います。その中の一つが、自分の同級生たちです。

小神学生の時、自分の同級生た

ちが高校三年生になって皆が一緒にやめたことがあります。高校三年生の時、勉強に集中しても時間が足りないその時に私は独りぼっちになってしまい、一年間は孤独を感じながら生活しました。でも、大神学校に入ると、同級生たちが二〇人もいまして、それがとても嬉しかったです。私と同じ年の人は十四人、私より年上の人が七人でした。今七人の内、二人がやめて新しい人が入って六人が神父になって司牧をしています。そして、十四人の中で十二人が神父になって司牧をしています。

私の神学校の生活は、サッカーとお酒と勉強ぐらいいましたが、全部一人するのはありませんでした。サッカーも一緒にしましたし、勉強も一緒にしました。それで、今も同級生たちに会ったら、楽しく話をし、ストレス発散もできます。自分が神父になった理由の一つは、その同級生と一緒にということが大きかったです。

最近は一入暮らしが増え、一人でいる人の数が増えつつありますが、社会生活と同じように、信仰生活は一人だけするものではなく、また一人でできるものでもありません。信仰生活は、教会で私の

周りに座っている人たちと一緒にするものです。そして、共同体と言われる私たち皆と一緒にするものです。神様も父と子と聖霊の三位一体という共同体の神様ですし、イエス様が弟子たちを選び、福音宣教と一緒にするようにしました。

それほど共同体は信仰生活に大事ということなんです。新しい年を迎え、私たち福江教会の共同体皆が、今年も共同体として皆と一緒に信仰生活をしていくことを楽しみにしながら、またお祈りしていきたいと思えます。

Viva Papa!!

フランシスコ教皇記念ミサ
感動のメッセージ

Part 2

教皇ミサに参加した信徒の皆さんへ、感想を募ったところたくさんメッセージをいただきました。前号に引き続き紹介いたします。

○船を降りると雨もあがり、時間を感じしつつか会場に向かった。着いてみると長蛇の列に、ほっとしながら流されるように移動し、一時間程前には席につくことができた。ゆっくり待っていると、場内アナウンスで「教皇様は大司教館を出てまもなく到着します。」とのことだったが、次の瞬間、下の方から歓声が上がりました。同時に周りは興奮の渦となりました。私も、胸にこみ上げて来るものがあり、涙が出て喜びと感動で胸一杯でした。信徒発見の時、

(K. U)

○教皇様来崎にあたって 私は、教皇様来崎四日前に風邪にかり、二四日の教皇ミサに参加できないのではないかと心配していました。いつも、回復するのに一週間以上かかっていましたので。それが奇跡的に二日で回復、雨の降る中、長崎に行けることになりました。参加者は皆、雨を覚悟して雨合羽を着ていましたが、お昼頃には奇跡的に雨も上がり、陽も差し、絶好の教皇様ミサとなりました。私にとっては奇跡が二度起こったようでした。教皇様が、ビッグNスタジアムに來られた時の歓声と拍手、会場を一周された時、幼子に祝福を授けられ



西坂公園訪問時の様子

た時の教皇様の神々しいお顔が目には焼き付いています。そして、教皇様が、長崎の地で世界に発した平和宣言に、長崎のカトリック信者として誇りに思います。(K, H)

○教皇様が赤ちゃんを抱き祝福をされた時、なぜか私まで嬉しくて涙が止まりませんでした。教皇様が私たちに向けて下さる愛をたくわえて、私達も愛と平和のパン種になれますように。

○十一月二四日、教皇ミサに参列すべく長崎まで出かけました。大変な雨模様でした。球場に近づくと長蛇の列。先を急いでいると隣の方にぶつかってしまいました。「信者の人だろうに…」と非難をいただきましたが「ごめんなさい申し訳ありません」

んでした」とつぶやきながら、指定された場所に到着。教皇様の到着までしばらく時間がありました。徐々に高まる気分。教皇様と同じ空気が吸える。等々と思っているうちに空は青空になりました。カッパも脱ぎ捨て無心でいるうちにミサが終わりました。余韻を味わいながらこれからの事を考えました。長崎に生まれたカトリック信者としての使命があると思います。一つは核兵器絶対反対。一つは潜伏キリシタンの世界遺産を通して、人間の尊厳、自由、平和について語り継いでいくことだと強く思いました。参加させていただきありがとうございます。(平山)

○教皇様が会場に現れた時の喜びと感動、そして会場いっぱい響く歓声は今でもしっかりと耳と心に残っています。その後のごミサは夢心地であつという間に終わった感じです。冷静になった今は教皇様の言葉をしみじみかみしめています。

朝早くから雨の中をたくさんさんのボランティアの人達が働いていました。その人達の努力があつて今回の訪問が実現したのだと本当に頭の下がる思いです。一人ひとりにお礼を言いたいくらいです。幸せな時間がありました。ありがとうございます。(五十代女性)

合同堅信式

2020

一月十九日(日)
十一時より、下五島地区合同堅信式が福江教会にて執り行われた。今年には下五島全体で二〇名(うち大人三名)、福



江からは九名が堅信の秘跡に預かった。高見大司教様の到着を緊張の最前列で出迎えた受堅者一人一人に対し、大司教様は丁寧な握手をし、声を掛けられた。

その後始まった堅信の儀では、受堅者一人ずつ名前が読み上げられた後、大司教様が手をかざして聖霊の恵みを受けた。続いて悪霊の拒否と洗礼の約束の更新を宣言した。その後、大司教様より額に塗油をいただき、秘跡を授けられた。

大司教様は説教の中で、「堅信の秘跡とは洗礼の恵みを新たにすることである。イエス様は聖

霊の働きによって洗礼を授けられた。私たちは洗礼を受



けることで聖なるもの、神の家族の一員となつている。自己中心、自国中心が蔓延する世の中。自分が悪い事をしないばかりか、他人に悪い事をされても許すのがキリスト者、イエス様の姿である。その様なイエス様の愛を理解するだけでなく実践する、証しする。堅信のお恵みを頂いて、大人の信者へのステップとして欲しい。」と述べられた。

ミサの最後に行われた感謝式では、浦頭小教会の中学生より、「愛のある行いをし、神の子としての使命を果たしていきたい。」との決意の言葉が力強く述べられた。

司祭団マラソン大会



一月二八日(火)奥浦地区の堂崎天主堂から福江教会まで約八・五kmを神父様や信徒たちが走る司祭団マラソンが行われた。今回も駅伝部門三チームやウォーキング部門があり総勢三一名がゴールを目指した。

前日はフェリーが全便欠航になるほど悪天候となり、開催が危ぶまれたが曇りときどき雨程度となり無事スタート。沿道にはたくさんの方の信徒・シスター・園児の可愛いちびっこ応援も結成さ



れて声援をおくっていた。特設のインドステーションもあり、スポーツドリンクや軽食などのサポート、そして選手の誘導や記録・救護スタッフなど万全の体制で行われた。健康にも気をつけて頂き、宣教司牧に日々邁進してくださる神父様方に感謝致します。

「二十六聖人のロザリオ」レプリカ展示



右側に記されているのは二十六聖人の名前。スペイン語(教皇様の母国語)の翻訳は、さいたま教区の山野内司教様が協力して下さいました。ロザリオ入れには、二十六聖人に捧げられた大浦天主堂が刺繍されている。

一月二六日(日)福江教会にて、フランシスコ教皇様来日の際、日本政府から記念品として贈呈された「日本二十六聖人のロザリオ」のレプリカが展示された。ロザリオを制作したのは、籠淵町でロザリオ専門店「ロザリーマリア」

を営んでいる職人であり、福江教会の広報委員でもある本山孝雄さん。外務省から直接の依頼を受け、五島の樅の枝を加工して作った二十六個の珠を用いてロザリオが形作られている。ロザリオは、がまぐち型のロザリオ入れとともに木のギフトケースに収納されていた。レプリカと言っても、同時期に制作されたものであるからほぼ同じものである(ロザリオ入れは奥浦の方、木のケースは奈留町の方が制作)。

二番ミサ後に一時間ほど展示され、多くの信徒が興味深そうに眺めたり、近づいてのぞき込んだりする姿が見られた。中には「このロザリオを販売する予定はないですか?」などと質問する方もいた。本山さんによると「先日長崎の百貨店で行われた物産展で、このレプリカを展示した時と同じ質問があった。」が、今のところ販売する予定はないとのこと。



写真中央奥が本山さん。信徒の質問に丁寧に答えていた。

本山さんの作るロザリオに興味のある方や、購入したい、誰かにプレゼントしたいという方は「ロザリーマリア」のホームページ <https://rosarymaria.com/> をご覧ください。また、籠淵町の工房兼店舗と末広町の山本海産物店でもロザリオを購入できます。是非お立ち寄りください!

お知らせ②今後の予定

- クリスマス募金
12月24日の御ミサ前の聖堂入り口での募金活動と、その後1月5日まで、設置された募金箱に合わせ269,656円の募金を賜りました。ご協力誠にありがとうございました。
- 高校生旅立ちの集い
3月14日(土) 晚ミサ後
- 聖ヨセフ神父様霊名のお祝い
祝賀式: 3月15日(日)
2番ミサにて
- ※祝賀会を2番ミサ後に信徒会館にて行います。
- 会費: 男性千円、女性五百円
- 黙想会の日程
昼の部: 3月24日(火) ~ 26日(木)
夜の部: 3月24日(火) ~ 26日(木)
講師: 中村倫明 司教様
- ※時間等、詳しくは後日案内があります。